

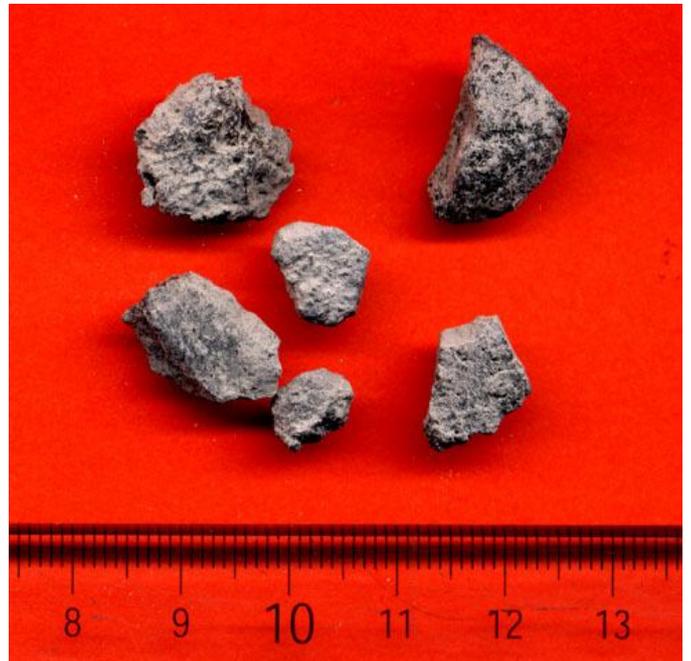
浅間山の過去の噴火も振り返ってみた。私が北軽井沢で浅間山の観察を始めて、一番大きかった噴火は、2004年9月1日の爆発だった。これも夜間で、私は新幹線の中に有り、メールで噴火を知った。



2004年の噴火では、私の山荘にも相当な火山灰が積もった。運悪く(観察的には「運良く」)、上空に西南西の風が吹いていて、降灰軸が私の山荘のほぼ真上に位置していたのだ。車(これは当時の愛車のキャンピングカー)のボンネットにも、火山灰がびっしり積もっていた。車のボンネットは、面積が計算できるので、 $1\text{ m}^2$ あたりの積灰重量を計算できる。



山荘のテラスも真っ白だった。水で流したぐらいでは落ちず、デッキブラシを使って落とすのが大変だった。「火山灰」は噴煙から落下してくる火山砕屑物のうち直径が $2\text{ mm}$ 以下のものをさす。しかし、この時はそれよりもはるかに大きい礫も降っていた。



これが、その時に山荘のテラスで採取した「火山礫」である。気を付けなければいけないのは、火山灰のほうは、噴火の原因をつくったマグマ由来のものである可能性が強いが、こうした火山礫はそうとは限らない。これも恐らくは、火口底をふさいでいた古い岩石(主として安山岩)が、爆発の衝撃で粉々になった破片(岩石片)であろう。こうした礫も、噴煙の中に大量に含まれている。その後上空の風に流されて、大きくて重いものほど火口の近くに、小さいものほど遠方まで飛ぶ。私の山荘は火口からわずか約 $9\text{ km}$ の位置なので、こうした比較的大きな礫も落ちてきたのだ。2004年の噴火では、細かい火山灰は、 $200\text{ km}$ も離れた福島県相馬市でも観測された。



山荘前の舗装道路も、火山灰が積もって真っ白になっていた。地元の人に聞いたら、噴火の大音響の数分後に石が降ってきて、屋根に「バラバラ」と音をたてて当たったという。この時あわてて外に出た住民の一人は、額に火山礫が当たって怪我をしている。